

令和6年度 取組事例のご紹介

第6回 安倍川水系流域治水協議会
令和7年3月21日

＜氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策＞

■雨水貯留浸透施設の整備推進

- ・井宮北小学校、賤機南小学校における雨水貯留浸透施設について、設計業務を完了
- ・井宮北小学校の雨水貯留施設整備について、令和7年度予算にて着手予定

＜被害の軽減、早期復旧・復興のための対策＞

■危機管理型水位計設置による支川の水位情報の提供

- ・（一）小豆川、（準）内宮川において、令和7年度の出水期前までに設置完了の予定

■排水ポンプ車導入による柔軟な運用態勢の検討

- ・被害軽減対策強化のため機動的に運用可能な排水ポンプ車を導入、令和7年度中運用開始を目標

＜流域治水 × グリーンインフラの取組＞

■小中学校などにおける河川環境学習（うしづま水辺の楽校）

- ・夏休み期間中、地域のボランティア団体「水辺の楽校世話人会」の運営で開催
- ・安倍川の自然や川の危険性などを子どもたちに伝える、河川環境学習の場として活用
 - ・7月20日～8月25日のうち、16日間開校⇒開校期間中の利用者数 約9,100人
 - ・平日には市立賤機中小学校の校外学習や放課後児童クラブでも活用
 - ・河川管理者・市・地域の連携による「水辺利用調整協議会」を組成
⇒令和6年6月に「都市・地域再生等利用区域」に指定
⇒地域主体による取組みが評価され、令和6年度「かわまち大賞」を受賞



高水敷内に整備したワンド部の様子

■水辺空間の賑わい創出（安倍川ルネサンス計画）

- ・田町親水公園・安倍川公園でのイベント出店者募集中（R8.3まで）
- ・R7.3.20に初めてのイベントを実施予定

静岡土木事務所では、安倍川流域治水プロジェクトに位置付けられた、「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として、安倍川指定区間における、市街地等を守る護岸整備など、国土強靱化5か年加速化対策により実施している。
令和6年度は、護岸整備および河道掘削を実施した。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○護岸整備等（工事） N = 3箇所



○根固工



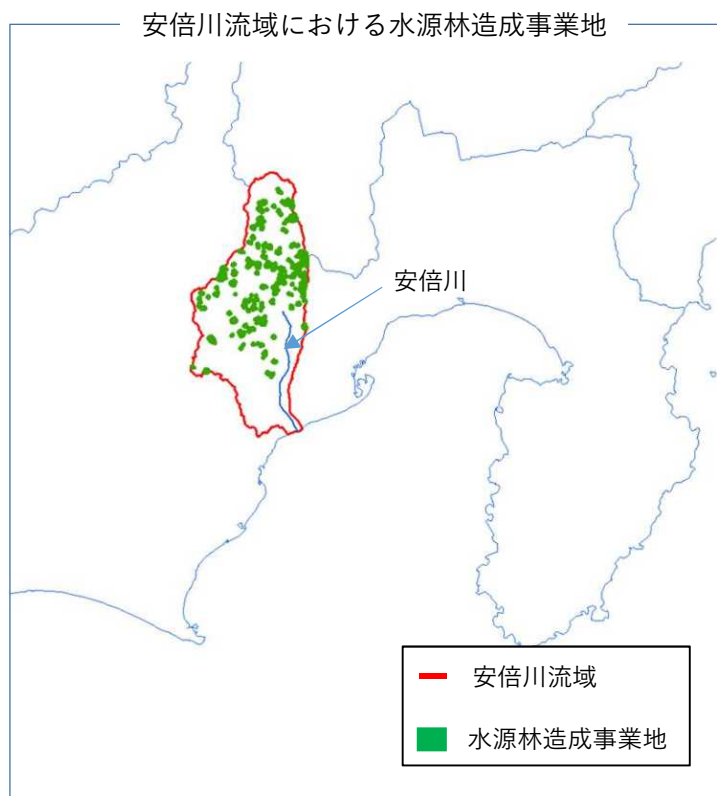
○河道掘削

・足久保川 ・藁科川 ・丸子川



■ 水源林造成事業による森林の整備・保全

- ・ 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・ 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- ・ 安倍川流域における水源林造成事業地は、約190箇所（造林地面積 約1,600ha(契約面積約2,200ha)）あり、新植、下刈り、除伐・間伐等の森林整備を計画的に実施しています。➡ 令和6年度実績 除間伐等 171ha実施



水源林の整備



針広混交林



育成複層林

混み入った人工林で間伐を実施



間伐前



間伐後

【静岡地方気象台】流域治水への取組

④ 静岡地方気象台



- 防災気象情報が市町の避難情報の発令や住民の避難行動の判断に活かされるよう支援を行っている。
- 令和6年5月27日から線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの情報について、地方単位から府県単位に対象地域を絞り込んだ。今後も、引き続き対象地域の絞り込みや発表時間の前倒しなど予測精度の向上に努める。

平 時

＜関係機関との連携強化の取り組み＞

- ✓ 気象台長の市町の首長との「顔の見える関係」を構築・深化



- ✓ 防災気象情報の利活用のための実践的な研修等の実施

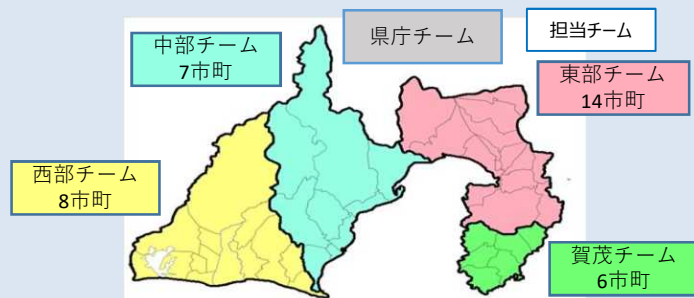


気象防災ワークショップ（自治体職員対象）



気象庁大雨ワークショップ（学校対象）

- ✓ 「あなたの町の予報官」を編成して支援・連携



※地域防災計画、ハザードマップ、地域特性、災害履歴と災害時の気象状況及び地震・火山活動の状況等について自治体と共有

緊急時

＜適時的確で迅速な対応＞

- ✓ 線状降水帯情報の対象地域絞り込み



線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの情報が、これまでは地方単位で呼びかけていたものを、府県単位で呼びかけることになった。

- ✓ ホットライン等により予報官の危機感を確実に伝達

- ✓ 災害対応支援のため「気象庁防災対応支援チーム（JETT）」を派遣

JETT派遣（県庁）
台風第10号に関する説明会
今後の天候や警報・注意報の見通しを解説



対策メニュー

短期

中・長期

【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

●被害軽減対策

- ・ 気象に関する予報精度向上
（予報期間長期化・地域の絞り込み・的中率の向上）
- ・ 関係機関との連携強化
（あなたの町の予報官・各種協議会等）

●住民の主体的な避難行動を促す取組

- ・ ハザードマップや防災気象情報（キキル等）の利活用を促進、住民の水害リスクに対する理解・促進の取り組み（各種防災イベント・出前講座・気象庁ワークショップ）

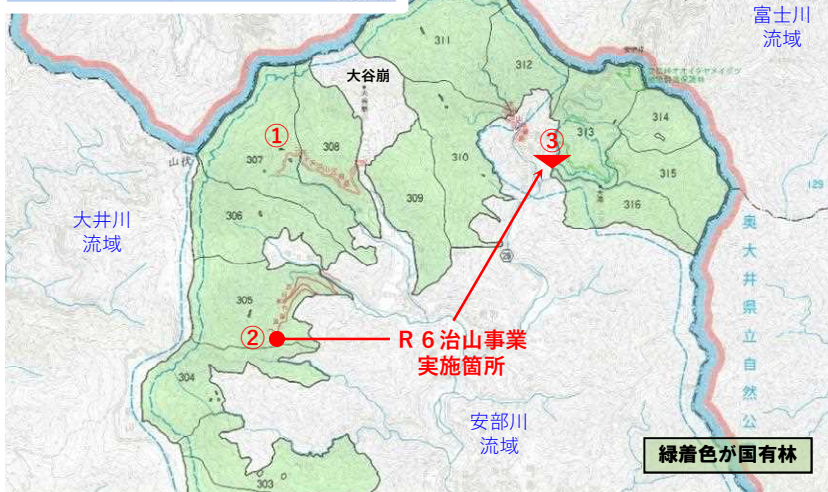
静岡森林管理署における国有林野内直轄治山事業の取り組み

● 安倍川最上流部の梅ヶ島国有林内において、多くの崩壊地が存在していることから、山腹崩壊地の復旧及び崩壊地から生産された土砂の流出防止を図るため、計画的に治山事業の取り組みを進めている。

● 令和6年度は荒廃溪流に治山ダム工0.5基と崩壊地の復旧として、山腹工1箇所を実施している。

【治山ダム工：L=38m H=14m V=1,960m³】 【山腹工：0.15ha 主な工種 簡易法枠工】

令和7年度については、引き続き山腹工2箇所を予定している。



① ヨモギ沢地区
(復旧状況)

② 西日影沢
(山腹工 (完成))

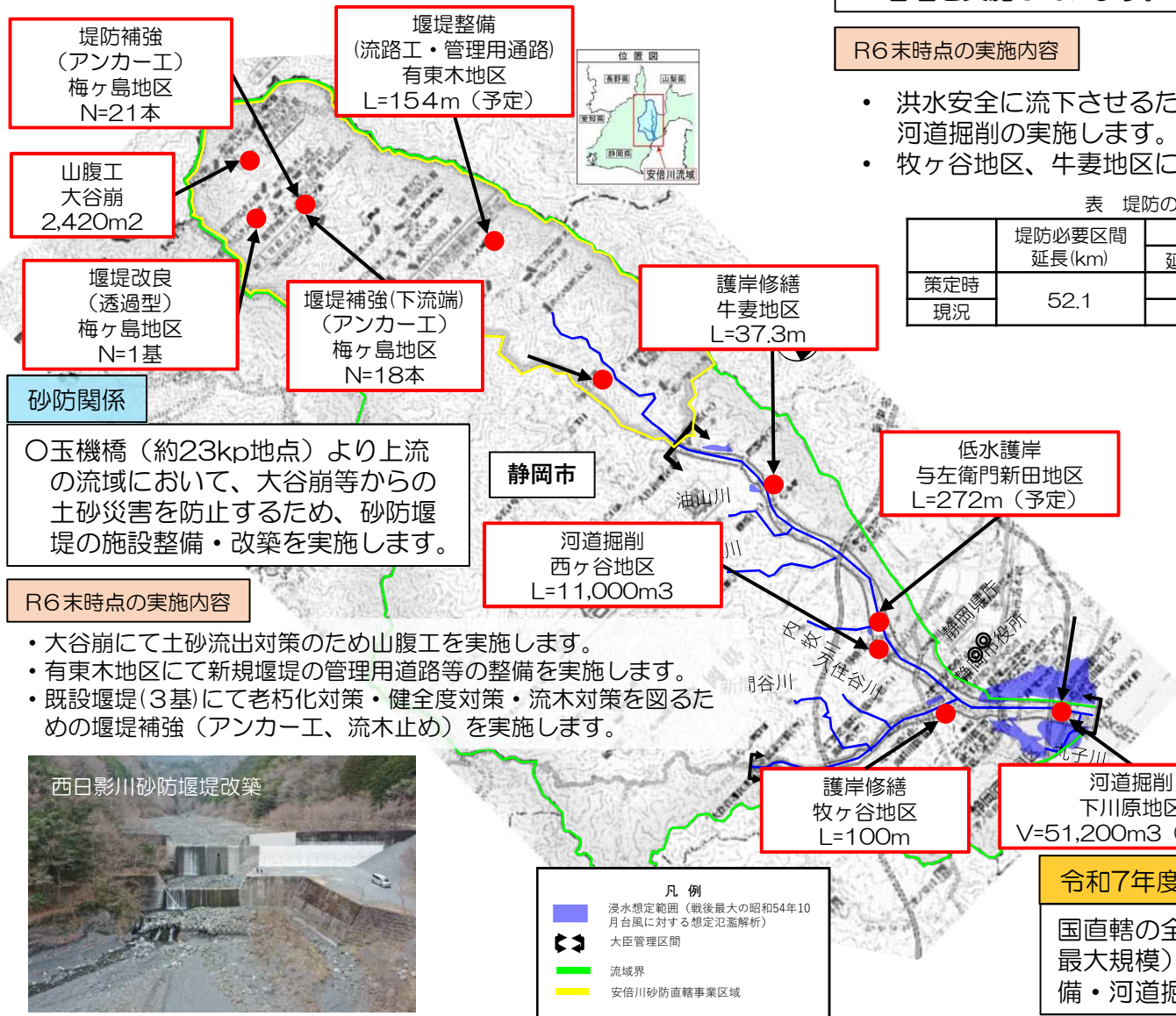


② サカサ川支流
(治山ダム工 (施行中))



□ 安倍川・安倍川砂防 令和6年度整備箇所

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



河川関係

○直轄管理区間 安倍川(22.7km)、藁科川(8.9km)において、洪水氾濫から地域の安全・安心を確保するため、河川改修・維持管理を実施しています。

R6末時点の実施内容

- 洪水安全に流下させるために、下川原地区、西ヶ谷地区などで河道掘削の実施します。
- 牧ヶ谷地区、牛妻地区において、護岸の修繕を実施します。

表 堤防の整備状況(令和6年度末時点)

	堤防必要区間 延長(km)	計画断面堤防区間		暫定断面堤防区間	
		延長(km)	率(%)	延長(km)	率(%)
策定時	52.1	32.3	60.0	14.1	26.0
現況		41.0	78.7	11.1	21.3



令和7年度末までの主な取組

国直轄の全区間においてS54.10月洪水(戦後最大規模)を安全に流下できるよう、堤防整備・河道掘削を引き続き実施します。

□ 水防災学生サポーター制度の活用

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 静岡県立駿河総合高等学校の2年生を対象に、静岡大学と静岡河川事務所が連携して作成した「高校生向け水防災教育テキスト（R5.10版）」を元に10月に水防災授業が行われました。授業では安倍川沿川の水災害リスクと社会条件の情報をもとに、水災害リスクに対してどんな対策が必要かグループで話し合い「各地域を住みやすくするために自分たちができること」を考えました。
- 水防教育を通じて、子供たちの水防災意識の形成と主体的に避難行動をとれる人間を育成し、地域全体で水防災意識をもつことを目指します。



授業の様子

テキストは駿河総合高校の先生や静岡大学の教授・学生の意見を取り入れて作成されています。



令和7年度以降の取組

- 静岡大学や要望のあった学校側と調整し、水災害学生サポーター制度を活用した授業の普及により、地域の水防災意識の向上を図ります。

※水防災教育学生サポーター制度：水防災教育授業に、教員補助や生徒への助言等のサポーターとして、学生を派遣することにより、水防災教育の導入にあたっての教員負担を軽減し、普及・拡充を促進することを目的とし、令和3年9月に創設。

□ 二線堤の維持管理

被害対象を減少させるための対策

- 二線堤は、氾濫流の下流域への拡散を防止し被害を軽減させる機能を有しているため、巡視などを通じ適切な維持管理に努めている。
- 二線堤に設置された13箇所の陸閘については、緊急時に備え確実に閉鎖できるよう、年1回静岡市と協同して操作訓練を行っている。



巡視による二線堤の点検(安西堤)

10月10日深夜から11日未明にかけて、道路の通行止めを行い、4つの陸閘（水道町、美川町、伝馬町新田、井ノ宮北小）の陸閘操作訓練を実施



操作訓練の様子



操作訓練の様子(井ノ宮北小陸閘)

令和7年度以降の取組

引き続き、二線堤の機能を維持できるよう点検・訓練を実施して参ります。

□ 安倍川大規模土砂災害合同防災訓練を実施

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 地震により安倍川上流域で大規模土砂災害が発生した場合を想定し、それぞれの関係機関の円滑な連携や局面に応じた判断力の向上を目指し、被害の軽減を図ることを目的に訓練を実施しました。

訓練参加機関：静岡市、静岡県、国土交通省



訓練の様子

被害想定

- 静岡市葵区にて震度6弱の地震を観測、深層崩壊の発生に伴い河道閉塞（天然ダム）が発生するとともに各所で地すべりやがけ崩れ等、同時多発的な土砂災害が発生。

訓練内容

- 3つのステージに分け進行役が災害シナリオに基づいて状況付与を行った上で質問を投げかけ、訓練参加者に回答を求める質疑応答型
- ステージ1:災害発生箇所の初動対応
- ステージ2:土砂災害防止法に基づく緊急調査の着手及び通知後の対応
- ステージ3:土砂災害緊急情報の通知及び通知後の対応

令和7年度以降の取組

安倍川流域内で大規模土砂災害が発生した場合に備え、関係機関が円滑に連携した対応ができるように、引き続き合同防災訓練や勉強会を実施する。

□ 重要水防箇所合同点検の実施

- 流域の水防団・消防団及び関係行政機関と合同で重要水防箇所の点検を6月に実施。

＜参加機関＞

静岡県中部地域局、静岡市、静岡地方気象台、静岡河川事務所（約25名）



特定区間 右岸1.25km
(静岡市下川原地区)



R5年被災箇所
左岸17.5km(静岡市牛妻地区)

重要水防箇所の一覧は、静岡河川事務所HPで確認できます。

(<https://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/bousai/suibou/>)



重要水防箇所 右岸0.5km
(静岡市下川原地区)

令和7年度以降の取組

出水期前に重要水防箇所を確認し水害リスク等を共有することで、迅速な防災体制の確保に努めて参ります。